

表とグラフ 指導の流れ

指導の流れーその①ー

表とグラフの単元の指導事項には、「身の回りにある事象について、目的に応じて観点を決め、資料を分類・整理し、表やグラフを用いて表したり読み取ったりすることができる」とあります。段階を踏んで指導のポイントをおさえながら進めましょう。

落ちや重なりなく資料を整理すること

落ちや重なりが生じないように、慎重に資料を確認していくことや、数を誤って記録することのないように「正」の字を書きながら確実に数え上げていくなどの態度を育むように配慮しましょう。



棒グラフをよむこと

棒グラフの構成要素に着目させ、それぞれの要素がおかれている目的を理解させましょう。

- ・表題は、資料の意味を表している。
- ・下に項目名が並べられている。
- ・縦の目盛りには、単位がかかっている。
- ・縦の目盛りには、区切りのよい数字が添えられている。
- ・棒の長さが、それぞれの数を表している。
- ・棒の長さによって、数の大小が一目でわかる。



1目盛りの大きさが1ではない棒グラフ

前学年までの分離量から、棒の長さという連続量になったことで、1目盛りを10や100などの適当な数値にして、棒グラフを手頃な大きさにできることを理解させましょう。



数値が大きい項目の順に並べ替えること

数量の大きさを視覚的にとらえやすくするために、並べ替えることがあること、数値の小さな項目を集めて「その他」とすることがあることを指導しましょう。また、棒グラフには棒を縦におくものと横におくものがあることに気づかせましょう。



②に続く

表とグラフ 指導の流れ

指導の流れーその②ー

棒グラフをかく手順

棒グラフをかくことができるようになると、目盛りの取り方や数値の大きさなど、棒グラフの細部にも目がいくようになり、棒グラフをより正しくよむことができるようになります。指導にあたっては、数量の大小の関係を視覚的にとらえやすくするという目的を理解させ、定規を使って丁寧に棒をかかせることを指導しましょう。



1 目盛りの値の決め方

適切な目盛りの大きさを判断する活動に取り組みせましょう。

- ・資料の中で一番大きな数値を見つける。
- ・その数値が用紙内におさまるように、目盛りの最大値をきめる。
- ・1目盛りの大きさをきめる。



簡単な二次元の表

前学年で項目の並びが1列の一次元の表を学習しています。縦と横に項目を並べ、2つの項目の組に対応する数値をマスに記入したものが二次元の表です。児童は、日常生活の中から時間割や料金表などをよんだ経験をもとに、縦項目と横項目を交差させて、そのマスの数値をよめばよいことを理解しています。そこで、具体的な項目や数値を使ってよみ取らせることで、二次元の表についての理解が深まるようにしましょう。



総合計を確かめること

縦の合計欄の数値の和と横の合計欄の数値の和が一致することを理解させておくことが大切です。二次元の表の理解を深めることにつながり、数値の入力ミスや間違いを発見することにも役立ちます。



棒グラフの比較によるよみ

2つの棒グラフを比較して、よみ取れることや推測できることを話し合う活動を行うことで、棒グラフを活用しようとする態度を育てましょう。はじめは、個々のグラフからよみ取れることを考え、次に両者を比較することによって見えてくることを明らかにしていきましょう。